



卷頭言

西垣, 和

(Citation)

海事資料館研究年報, 24

(Issue Date)

1996

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005681>



巻 頭 言

海事資料館館長 西 垣 和

本学の海事資料館には和船の模型、航路図など3000点近い貴重な資料が保蔵されています。私には震災後の一日、これらの資料を移動さす作業を手伝った経験があり、資料の多くが大きな被害を受けていることを知っていました。その被害状況については、特集的に本報で報告されています。資料館の仕事を引き受けてから感じたことは、きちっとした資料の整理が必要であるということと、整理できた資料は出来るだけ多くの人、特に本学の学生や教職員に観たり利用したりしてもらいたいということでした。このことは海事大学の日常活動の一つとしても大切であると思われまます。ただ公開するにしても、資料館には専属の職員がいないので、手薄な図書館職員の手を煩わすことになり困難ではあります。幸い理解と協力が得られ、毎月一度、半日だけの学内公開に踏み切ることができました。震災で閉館していた資料館の再開と学内公開日については、たまたま昨年は「海の日」の祝日が制定された最初の年に当たり、地元神戸を中心に海事に因んだイベントが催されましたので、これと軌を一にして、7月20日としました。この日の再開にこぎつけるために、顧問の先生をはじめいろんな方々に協力して頂きました。

まだ多くの資料がプレハブに置かれているので、今後の復元・整理が大変です。ただ、現在展示されている資料（約300点）に限れば随所整っています。出来ればこれらを前にした総合教養科目の授業とか海事文化講座など、有効に利用されることを望んでいます。

今後の資料の整理・管理方法については、現在デジタルカメラとコンピューターを用いて、データベース化を始めるべく準備中です。また、各資料の調査・研究は、従来より専門員や顧問の先生方を中心に進めていただいておりますが、今後もより多くの収蔵資料についてその来歴・特徴・学術的意義などを明らかにしていただき、大学の資料館として、レベルが一層高まり充実することを期待しています。